収益・費用の前受・前払と未収・未払

４分類

【重要性：Ｃ】

ＰＯＩＮＴ！

収益・費用の前受・前払と未収・未払の内容を大まかにとらえよう！

　当期に受け取った金額や当期に支払った金額を期中に収益や費用として処理している場合に、その中に次期の分が含まれている場合があります。そこで、次期の分を当期の収益・費用から差し引き、次期に繰り延べることを、**収益の前受・費用の前払**といいます。

　また、当期の収益・費用であるのに、まだお金を支払っていなかったり、まだお金を受け取っていないことにより、収益・費用として処理が行われていない場合があります。そこで、当期の収益・費用とするために計上することを、**収益の未収・費用の未払**といいます。

　収益・費用の前受・前払と未収・未払の処理は、通常、**決算整理**で行われます。

・費用の前払 ⟶ 前払費用（資産）
・収益の前受 ⟶ 前受収益（負債）

・費用の未払 ⟶ 未払費用（負債）
・収益の未収 ⟶ 未収収益（資産）

費用の前払

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　費用の前払の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「前払費用」勘定（資産）

当期に支払った費用の中に次期以降の費用が含まれている場合、これを当期の費用から差し引いて、次期以降の費用とするために繰り延べます。これを、**費用の前払**といい、費用の前払から生じる勘定を**前払費用**（まえばらいひよう）といいます。

前払費用はお金を支払っていますが、まだ、サービスを受けておらず、今後サービスを受ける権利として**資産**です。なお、前払費用は具体的な内容を示すために「前払家賃（まえばらいやちん）」勘定、「前払地代（まえばらいじだい）」勘定、「前払保険料（まえばらいほけんりょう）」勘定、「前払利息（まえばらいりそく）」勘定などを用います。

例題　2030年4月1日に向こう１年分の支払家賃1,200円を現金で支払った。なお、決算日は12月31日である。

① 家賃支払時（期中取引）

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
支　払　家　賃	**1,200**	**現　　　金**	**1,200**

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

支　払　家　賃	1,200	

③ 決算整理（2030年12月31日）

前T/Bにおける支払家賃1,200円のうち、2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の費用ですが、2031年1月から3月までの３ヶ月分300円は次期の費用とすべきです。そこで、決算にあたり、次期の費用分300円を当期の費用から差し引き、次期の費用とするために「前払家賃」勘定（資産）として繰り延べます。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
前　払　家　賃	**300**	**支　払　家　賃**	**300**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

前　払　家　賃	300		
支　払　家　賃	900		

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

繰り延べた費用は、次期の費用とするために、期首で決算整理仕訳の逆仕訳を行います。これを**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。これにより、繰り延べた前払費用が次期の費用となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
支　払　家　賃	**300**	**前　払　家　賃**	**300**

収益の前受

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　収益の前受の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「前受収益」勘定（負債）

当期に受け取った収益の中に次期以降の収益が含まれている場合、これを当期の収益から差し引いて、次期以降の収益とするために繰り延べます。これを、**収益の前受**いい、収益の前受から生じる勘定を**前受収益**（まえうけしゅうえき）といいます。

前受収益はお金を受け取っていますが、まだ、サービスを提供しておらず、今後サービスを提供する義務として**負債**です。なお、前受収益は具体的な内容を示すために「前受家賃（まえうけやちん）」勘定、「前受地代（まえうけちだい）」勘定、「前受利息（まえうけりそく）」勘定などを用います。

例題 **2030年4月1日に向こう１年分の受取家賃1,200円を現金で受け取った。なお、決算日は12月31日である。**

① 家賃受取時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**1,200**	**受取家賃**	**1,200**

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

	受取家賃 1,200

③ 決算整理（2030年12月31日）

前T/Bにおける受取家賃1,200円のうち、2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の収益ですが、2031年1月から3月までの３ヶ月分300円は次期の収益とすべきです。そこで、決算にあたり、次期の収益分300円を当期の収益から差し引き、次期の収益とするために「前受家賃」勘定（負債）として繰り延べます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取家賃	**300**	**前受家賃**	**300**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

	前　受　家　賃　300
	受　取　家　賃　900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

繰り延べた前受収益は、次期の収益とするために、期首で**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。これにより、繰り延べた前受収益が次期の収益となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前受家賃	**300**	**受取家賃**	**300**